

顧客目線の本づくりや店舗づくりをサポート

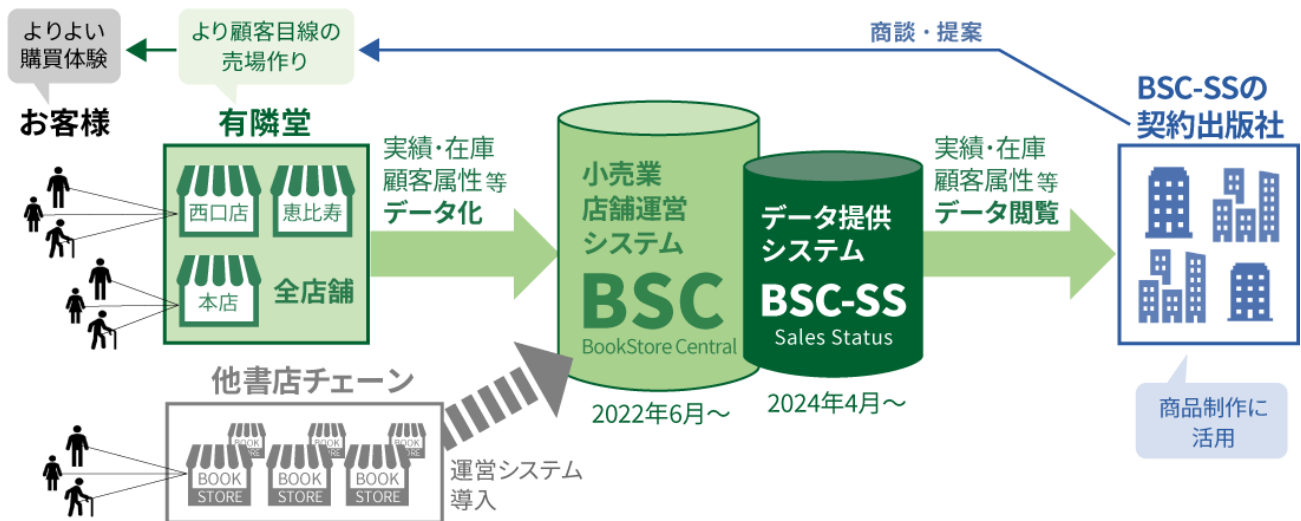
店舗の販売データの閲覧・分析ツール「Book Store Central-Sales Status」

～ デジタル戦略の新規事業4月から提供開始し、導入企業は100社を達成 ～

株式会社有隣堂（本社：神奈川県横浜市 代表取締役社長：松信健太郎）は、4月からの新規事業として、有隣堂各店舗（※）の書籍・雑誌の販売数や在庫数などのデータを閲覧・分析が可能になるツール「Book Store Central-Sales Status（BSC-SS）」の有料提供を開始しました。このツールは、当社が2022年に開発した店舗運営システム「Book Store Central（BSC）」をベースにしています。

これにより当社は、「BSC-SS」の導入企業と協力し、店舗の販売・在庫状況を可視化して精度の高いデータ分析・仮説検証が可能となりました。新規事業開始からの導入企業はすでに100社を超えています。今後も「BSC-SS」の活用推進を通して顧客目線の商品制作をサポートし、読者のニーズに応える店舗づくりの実現を目指してまいります。

※店舗数：HIBIYA CENTRAL MARKETを除く全41店舗

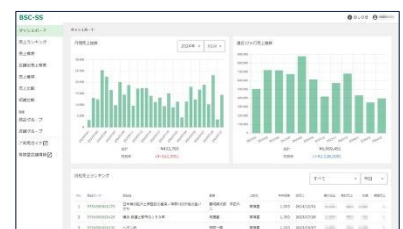


■ Book Store Central - Sales Status（BSC-SS）とは

おもに出版社を対象に、有隣堂各店の書籍・雑誌売上数、在庫数などのデータ（Sales Status）をEdgeやChromeなどのブラウザ上で閲覧していただけるサービスです。

■ 事業開発の背景 書店事業が厳しさを増していくなか、弊社では事業全体の再構築を進めております。その中でデジタル化の推進によるインフラ整備を進め、自社で小売業の店舗管理システム「Book Store Central（BSC）」を開発しました。これにより柔軟でスピーディなシステムの追加改修が実現し、以前から要望があった各店の在庫情報や販売状況を出版社へ提供するツールを開発することができました。

■ 今後の展開 今後は、書籍・雑誌と並行して、文具・雑貨の販売・在庫データにも対応した運営システムの開発、および他書店チェーンでも利用いただけるプランの提案を検討してまいります。



ダッシュボード画面イメージ